

こみち

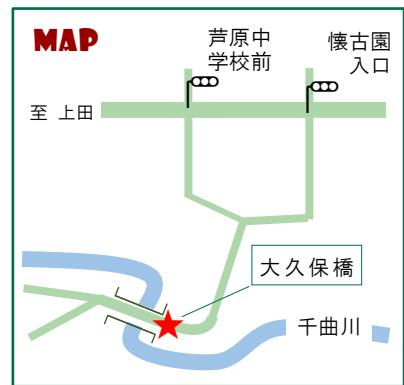
本の小途

Vol. 6

2020.秋号



特集
Before / After



＝表紙写真＝ 2019年11月に撮影した大久保橋。千曲川と紅葉と秋晴れが一遍に楽しめる。

『藤村詩集』P.20 (島崎藤村 著/新潮社/2008.6)
『作家の口福』P.283 (中島京子 ほか著/朝日新聞出版/2011.2)

秋といえば実りの季節。
林檎畑の樹の下に
おのづからなる細道は
誰が踏みそめしかたみぞと
問ひたまふこそこひしけれ”
この詩はご存知、島崎藤村の「初恋」の一節です。りんご畑で育まれる甘酸っぱい恋の詩はいつの時代も人々の胸をキュンと締め付ける、そんな魅力を持っています。
同じく秋の実りの代表ともいえる米は、日常の中でも大きな存在です。作家・中島京子は『作家の口福』の中で、米がある。米がある。炊けばいつでも食べられる！”と、米があるという事実は自分を幸せにすると記しています。今年も美味しい実りが私たちに幸せにしてくれましょう。
秋は実りだけでなく、様々な魅力で私たちに幸せにしてくれる季節です。皆さんは「秋といえば」の続きにどんな言葉を思い浮かべるでしょうか。

募集中!

～本途人舎よりお知らせ～

小諸の魅力を再発見!

～歩いて、学んで、はいい地～図!～

地域の歴史を学んで、自分目線の地図を作ってみませんか?

日時 10月24日(土) 9:00～15:00
場所 与良町周辺(北国街道沿い)
参加費 2000円(ガイド代、会場代など)
募集人数 10人(先着順)
日程 9:00～10:30 まち歩き
11:00～15:00 手書き地図作成

問合せ&申込み NPO法人 本途人舎
メール hontohitosh@hohito.com まで

研修報告
まち歩き&手書き地図づくり
地域の歴史を学び、それをもとにオリジナル地図を作る研修をスタッフで行いました。当日は、こもろ観光ガイド協会の清水季志子さんと、手書き地図推進委員会・会員で、グラフィックデザイナーの江村康子さんを講師に、まず、大手門公園から本町までを散策。その後、ほんまち町屋館で、午前中、学んだことを活かしてオリジナル地図を作成しました。小諸に長年住んでいても知らなかった歴史を知り、それを個人の目線で形に残せる有意義な機会になりました。



本選びのヒントは「香り」

香りと本が結びつく!?「香り」をヒントに本を選ぼう」を九月十三日に市民交流センターで行いました。

当日は、健康包括支援協会認定の嗅覚反応分析士トレーナーの清水しおりさんを講師に、四本のボトルの香りを嗅ぎ、香りの好き嫌いからわかる特性や健康面などのアドバースのお話をさせていただきました。その後、タイプ別おススメ本のブックトークや、図書館での選書、香りのしおり作りなども行い、「本と香り」を楽しみました。講座の様子は本途人舎ホームページでも紹介しています。



次回のほんのひととき

好きな本を語りたい方、聞きたい方大募集!
小説、漫画、雑誌、専門誌……本のジャンルは問いません。
一緒に「ほんのひととき」を過ごしませんか?

10/18、11/15、12/20 いずれも午後3時～5時

会場：市立小諸図書館 ボランティアルーム

今月の元標 (第6合目)



「千曲川のスケッチ」の祇園祭をお客さんの側から見た祭の風景としたら、私のは祭の雑踏の中で、客のふところをめぐって吼えつつける露店商人の経験した祭といえるのではあるまいか。

「小諸の祇園祭」(『長野県文学全集 第2期 随筆・紀行・日記編 明治編2』) P.151より
(塚原健二郎 著 / 郷土出版社 / 1989.11)

塚原健二郎 (M28～S40) は埴科郡東条村 (現長野市) 生まれ、小諸の雑貨商勤めを経て東京。児童文学協会の設立に参画した。上の文章は、雑貨商に奉公していた当時の思い出を綴っている。

「元標」とは浅間山を登る人のための道しるべのことをいい、小諸八幡神社を起点としています。

編集後記

先日、以前の会報で紹介した本の作者の方からお声がけをいただきました。その方は市外の方で、友人を介して会報を手に入れたとのこと。不思議なご縁に驚くと共に、改めて地域に関連した本や情報を発信できるようまい進していきたいです。(Y&K)

人の数だけ本棚がある。

十じゅうにん 人と 十とだな 棚

今月は
あーちゃんさん
の本棚



「枕元にミニ本棚を置いています。軽めなエッセイを読むか、大好きな上橋さんの小説にするかはその日の気分です。」

本棚を募集しています

このコーナーでは皆様のご自宅の本棚を募集しています。デジカメ、携帯カメラで撮った本棚の写真にお名前 (P.N可) を添えて下記のメールアドレスまでご応募下さい。
応募先 hontohitosh@hohito.com (件名「本棚コーナー宛」)

表の通りだけでなく側面まで看板で

I この建物は看板建築なんです、魅力はなんでしょう。

Q 大正を感じさせる作りが魅力的ですが、石川さんから見て、建物の

も活躍してほしいと考えています。

た。なるべく手を入れずに、現代で

援を受けて買い取らせてもらいまし

関わるうちに建物が取り壊しになる

と聞き、居ても立っても居られず支

番感銘を受けたのがこの旧山崎長兵

衛商店でした。協力隊として小諸に

小諸市の地域おこし協力隊に志願す

る際に町歩きをしました。その時一

「荒町GATE 開魂楼 時の門」

のオーナーである石川さんにお話

を伺ってきました。

Q まずは開業に至った経緯を教え

て下さい。

石川さん(以下・I)今から三年前、



荒町GATE 開魂楼 時の門 オーナー

いしかわ みのる
石川 実 さん

ワーキングスペース 1日700円 (Wi-Fi有)
＼今だけ！お得に泊まれる！！／
1泊・素泊 4,000円/人 (4名以上から)
このほか1棟貸切や館内見学も
できます。
詳しくは 石川さんまで
☎090-4003-9997
メール jadhalon@gmail.com



開魂楼 時の門
Facebook

★載せきれない写真やおはなしを
ホームページで公開中！

ほんとひと

本と人を紹介するコーナー

荒町にある旧山崎長兵衛商店の
看板建築。大正モダンを感じさせ
る内装はほとんど当時のまま保存
されています。

今回「旧山崎長兵衛商店」改め
「荒町GATE 開魂楼 時の門」
のオーナーである石川さんにお話
を伺ってきました。

覆う看板建築はあまりありません。
また、奥行きもあります。これは全国
的にも有数の規模になります。そし
て、内装にも当時の社長の凝り具合
が随所に見られます。北国街道の拡
幅工事の際に軒を切らずに建物ごと
移動させた形跡や、財産や身を守る
ために自分で閉じ籠るための座敷牢
など、ここで見られる造りば
かりです。一步建物の中に入るとま
るで大正にタイムスリップしたよう
な、時代の体験ができます。立地的に
も街道沿いの本町と与良の真ん中で
すので、色々な人が多種多様に集う
場作りになればと思っています。

I 今回取材のお話を受けて実家に
問い合わせたところ、本棚にはマイ
ケル・ムアコックや菊地秀行といっ
たSF小説やカフカなどの想像力を
刺激する本が並んでいたそうです。
中でも思い入れがあるのは「アルジ
ヤノンに花束を」(ダニエル・キ
イス著)です。好きなミュージシャ
ンが出した曲のタイトルがきつか
けでした。今はもっぱら雑誌の『新建
築』(新建築社刊)を読んでいます。
想像できる本がやっぱり好きですね。
— ありがとうございます。一つの
ものに味を付けるとき、自分は最低限
の味付けがいいとおっしゃる石川さ
ん。荒町GATE 開魂楼 時の門が
これからどんな味になっていくのか、
注目していきたいです。

これぞ逆転満塁ホームラン！



『限界集落株式会社』

黒野伸一/著 小学館

過疎化が進み衰退していく
だけの村に救世主現る？
農業をビジネスに！
憂いているだけでは希望は
nothing！！

捨ててはいけない！？

『かわいい エコ・雑貨』

平田美咲/著 小学館

『ペーパー芯をおしゃれにリメイク ナチュラルモチーフと小物』

坂本あやこ/著 プティック社

用が済んだら捨てるでしょ、普通
は。こんなステキなものになるなんて
夢にも思わず…。



Before / After

おどろきの変身を遂げたモノやコト、
人生までもを描いた本たちを
あつめてみました。

まあ
なんということ
でしょーう！

自分らしく生きよう！！



『ぼくがスカートをはく日』

エイミ・ポロンスキー/著

西田佳子/訳 学研プラス

12才のぼくは秘密を抱えたまま暮
らしている、ある出来事までは。
悩んで、考えて、言葉にして…ぼくの
心や周りの人たちの変化を追いなが
ら最後は本当の自分で堂々とし！！



『凡人のための地域再生入門』

木下斉/著 ダイヤモンド社

寂れた商店街、補助金ありきで未来へ続かない
企画やイベント。生まれ故郷が活性化しない
理由はここにあった！
物語仕立てで読みやすく地域再生のヒントがあ
ちらこちらにちりばめられています。

姿を変える



『まほうのおまめ』

松本春野/文・絵
辰巳芳子/監修
文藝春秋

大豆が豆腐や醤油
になることを優しく教え
てくれる絵本。
国産大豆をもっと大
事にしなければ！



『おいしい豆腐スイーツ』

鈴木理恵子/著 誠文堂新光社

マフィン、チョコレートケーキ、
モンブラン…これならカロリー
を気にしなくても大丈夫！
だってお豆腐なんだもん♪

服を育てるという考え方



『ダメージは味方「お繕い」で服を育てる。』

堀内春美/著 主婦の友社

穴が開いても、シミが出来ても、お気に入りをあきらめない。
もったいないをオシャレに。昔は身近にあった言葉「繕う」をテーマにダーニ
ングや当て布で再生する靴下や洋服がかわいい♡

メンバーおすすめの本

紹介人 塩川かおり



『絵くんとことばくん』
天野祐吉/作・大槻あかね/絵
福音館書店

小学生の時に家であって、好きだった1冊です。
4年生の優太くんは、お母さんにお小遣いを上げてもらうために頭の中の
<絵>くんと<ことば>くんと一緒にお願いのポスターを考えます。
爆弾の絵と『このままでは日本中のこどもの怒りが爆発するぞ いそいで
こづかいを倍にしよう』といったド直球なものから、小さな困いと大きな
困いの中にある2頭の牛の絵と『おこづかいが倍になるとぼくの世界も倍に
広がる』といったちょっと捻ったものまで、最終的に<絵>と<ことば>は15
枚のポスターを描き上げます。果たして、どれが採用されるのか？
このお話では常に『どうしたらお母さんがおこづかいを上げる気になるの
か？』を考えてポスターを作っています。強気に出てみたり、謙虚になっ
てみたり、お母さんにどんな得があるのかをアピールしてみたり…。当時は
<絵>と<ことば>の発想力が面白くて見ていたものですが、誰に何を伝える
ために広告やチラシを作るのか、目的からアイデアを広げていくことは
仕事をしている今は更に共感や参考になるものがあり、『(小さな字で注記
する部分について)つごうのわるいことは誰だって小さい声でいうだろう？』
などニヤリとしてしまう部分もあり、大人が読んでもきっと面白い1冊です。